

宇都宮市立豊郷中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」という質問項目についての肯定割合は75.9%、「家で、学校の授業の予習をしている。」という質問項目についての肯定割合は62.4%、「家で、学校の授業の復習をしている。」という質問項目についての肯定割合は82%、「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。」という質問項目についての肯定割合は74.8%で、県の平均をそれぞれ、8.4ポイント、19.5ポイント、9.8ポイント、11ポイント上回っている。家庭での学習習慣が身に付いている様子がうかがえる。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」という質問項目についての肯定割合は83.1%で、県の平均を10.9ポイント上回った。また、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」という質問項目についての肯定割合は93.8%で、県の平均を5.4ポイント上回った。学習に対して興味・関心を持ち、有用性を感じて取り組めている様子が伺える。

○「家の人と将来のことについて話すことがある。」という質問項目についての肯定割合は74.2%で、県の平均を7.7ポイント上回った。また、「家の人と学習について話をしている。」という質問項目についての肯定割合は87.7%で、県の平均を9.7ポイント上回った。家庭での学習や将来について、コミュニケーションがよくとれている様子が伺える。

●「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」という質問項目についての肯定割合は80.4%で、県の平均を9.9ポイント下回った。しかし、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」という質問項目についての肯定割合は91.6%で、県の平均を10.2ポイント上回った。1人1台端末の活用により、ノート上というより、端末を使って「目標→振り返り」の活動をおこなっている影響も考えられる。改めて、授業の中で目標を意識させて学習活動をし、最後に振り返りを行うという流れは徹底していきたい。

●「誰に対しても、思いやりの心をもって接している。」という質問項目についての肯定割合は90.4%で、県の平均を2.3ポイント下回った。しかし、「道徳の学習は好きですか。」という質問項目についての肯定割合は88.8%で、県の平均を14.4ポイント上回り、「道徳の学習は、将来のために大切だと思いますか。」という質問項目についての肯定割合は95.5%で、県の平均を3.4ポイント上回った。学習には意欲的に取り組んでいるので、客観的に厳しく自分を見つめるための回答かもしれないが、引き続き、思いやりの心が育つような場面を授業や普段の学校生活で意識的に設定していきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて次の目標達成を目指す。 ・言語活動を通し、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を図る。 ・学力向上を目指し家庭及び地域学校園と連携した「豊郷の豊かな学び」の実現を目指す。	①指導目標を明確にし、指導内容の充実に努める。 ・指導と評価の一体化のための学習評価の研究 ・授業での「学習課題」の提示及びまとめ・振り返りの工夫 ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。 ・学力向上を目指した言語活動の充実 ・1人1台端末の効果的な活用 ③望ましい学習態度の育成に努める。 ・家庭学習を充実させるための指導 ④「グローバル社会」に主体的に向き合う教育の推進に努める。 ⑤各教科・領域、家庭・地域との連携に努める。	①について、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」という質問への肯定的な回答の割合は91.6%で、県の平均を10.2ポイント上回った。 ②について、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」という質問への肯定的な回答の割合は85.4%で、県の平均を7.5ポイント上回った。 ③について、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」という質問への肯定的な回答の割合は68.5%で、県の平均を11.6ポイント上回った。 ④について、「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある。」という質問への肯定的な回答の割合は74.1%で、県の平均を7ポイント上回った。 ⑤について、「家の人と学習について話をしている。」という質問への肯定的な回答の割合は87.7%で、県の平均を9.7ポイント上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
【国語】 理由とともに自分の考えを書くことが難しい。 【社会】 資料から選ぶこと、資料の特色を読み取ることが難しい。 【数学】 基本を定着させる必要がある。 【理科】 資料をもとに推測することが難しい。 【英語】 得た情報をもとに、自分の考えを整理して、まとまりのある文章を書くことが難しい。 【質問調査】 ・「新聞を読んでいる。」という質問への肯定的な回答の割合は9.6%に止まっている。 ・ふだんの学校の授業時間以外での、1日の読書時間が10分以下の生徒が38.8%いる。 ・1か月の読書量が1冊に満たない生徒が13.5%いる。	・言語活動を通し、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を図る。	・あらゆる授業等において、自分の考えを理由とともに話し、話したことをまとまりのある文章で書く活動を取り入れる。 ・あらゆる授業等において、資料から物事の特徴を捉えたり、比較、検討したりして、わかったことや考えたことを話したり書いたりする活動を取り入れる。 ・国語、社会、理科、英語の時間や総合的な学習の時間を中心に、授業で新聞を活用し、資料を読み取る力や文章を要約し、自分の言葉で表現する力をつけさせる。 ・新聞を活用した家庭学習のやり方を提案する。